

里山の秋を訪ねて

谷 優（成田市）

日時：2021年9月25日（土）10時～12時 天候：曇り

場所：京成線公津の杜駅周辺の里山

参加者：7名、成田市環境課職員2名

担当指導員：坂本文雄、伊藤道男、中村高士、谷 優

コロナ禍で開催は無理かと思っていた観察会。参加者が少人数で、ワクチン接種も終わっているのも予定通りやりますと市から連絡が入り、急いで下見をして本番に臨みました。

当日は前日まで連日30度を超えていた残暑が収まり、暑くも寒くもなく絶好の観察日和となりました。

公津の杜駅から住宅街を抜け北に歩いて10分もすると、そこは別天地。緑豊かな里山が我々を迎えてくれました。今回は指導員の中村高士さんが描いた植物のイラストと説明がメインの資料です。早速、中村さんからクズ（葛）についての解説が。クズから葛根湯という風邪によく効く漢方薬が作られると説明がありました。参加者からは「葛餅。」「葛湯もそうだね。」「吉野葛は高級品！」と反応があり、クズに親しみを覚えました。杉林に入ると伊藤さんの出番です。2年前の台風で被害を受けた山武杉がまだあちこちに残っています。これは非赤枯性溝腐病が原因で、溝腐病に侵された箇所は手で触るとボロボロと崩れ、これでは台風で倒れるはずだと一同納得しました。

杉林を抜けると、白い花が一面に咲いていました。そばの畑です。そばの茎は下が赤くなっています。坂本さんが以前聞いたそばの茎はなぜ赤いのかという民話(?)を披露してくれました。(紙面の関係で省略します。)途中、大きな実をたくさんつけた栗畑、お茶の白い花、カラスウリの赤い実、山芋のつるに付いたムカゴなどを目にし、秋を満喫しながら進みます。山芋は、種とムカゴ、そして根元の芋の3つで増えていくことを初めて知りました。「ムカゴが種と思っていた。」という声から参加者から聞かれました。

山道を抜けると田んぼが広がっていました。この辺りの江弁須という土地は、昔からウナギを食べてはいけない所です。その訳は近くにある正蔵院に安置されている虚空蔵菩薩に由来します。昔、困っている虚空蔵菩薩を助けたのが大ウナギ、そのため江弁須地区の人はウナギを神の使いとして食べないそうです。では今は？

今回の観察会では、草花や樹木を見て、触って、味わって楽しみました。「イヌガヤの実甘い!」「カヤの実なかなかいけるね」。参加者の皆さんは、このコロナ禍の中、秋の里山をじっくりと味わい満足して帰られたようです。



満開のそばの花